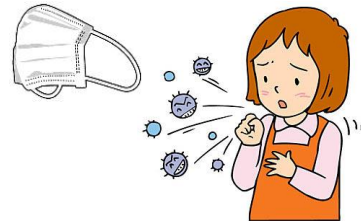


# 新しい結核感染診断法 IGRA（インターフェロン- $\gamma$ 遊離試験）について



国立病院機構宇都宮病院  
呼吸器内科・臨床検査科

結核感染の診断法として、これまではツベルクリン反応が用いられてきましたが、BCG接種や非結核性抗酸菌症による影響を受けるため、「ツベルクリン反応は、結核菌に感染していなくても感染している場合と同様の反応（発赤や腫れなど）が出てしまう」という欠点がありました。このため、現在では結核感染の診断法として、ツベルクリン反応よりも診断能の高いIGRA（Interferon- $\gamma$  release assay）が推奨されています。



## 1 IGRA 検査とは

「結核菌に感染しているか否か」を判断する検査です。

IGRA 検査には、クオンティフェロン（QFT）とTスポットの2種類があります。

## 2 QFT と Tスポットとの違い

	QFT	Tスポット
結核菌群特異抗原	3種類	2種類
測定	インターフェロン- $\gamma$ を測定	インターフェロン- $\gamma$ 産生細胞数を測定

QFT は結核菌群特異抗原で血液を刺激し、産生されたインターフェロン- $\gamma$ の総量を測定します。

Tスポットはインターフェロン- $\gamma$ を産生した細胞（スポット）の数を測定します。

### 3 IGRA 検査の利点

IGRA 検査は以下の点について、ツベルクリン反応より優れています。

- ② BCG 接種や大部分の非結核性抗酸菌症感染の影響を受けない
- ② ツベルクリン反応より客観的な結果が得られる
- ③ ツベルクリン反応と異なり、連続した検査にて反応が増強されない（ブースター効果なし）



### 4 IGRA 検査の弱点と限界

- ① 活動性結核と潜在性結核感染症（感染のみで無症状）を区別できない  
これらを区別するためには、他の臨床所見や検査結果などが必要
- ② いつ結核に感染したかは、分からない
- ③ 結核に感染した人が全員陽性になるとは限らない

	Q F T	Tスポット
感 度	93.7 %	97.5 %
特異度	93.8 %	99.1 %

（添付文書）

- 感 度：ある病気の検査を行うとき、実際に病気にかかっている人のうち検査が陽性とする割合
- 特異度：ある病気の検査を行うとき、実際に病気にかかっていない人のうち、検査が陰性とする割合

一般的に、感度と特異度が高い検査は信頼性が高い、とされています。

